

# Hello

2000

7

No.215

# friends

KANAGAWA  
INTERNATIONAL  
ASSOCIATION  
NEWSLETTER

(財)神奈川県国際交流協会 〒247-0007 横浜市栄区小菅ケ谷1-2-1 神奈川県立地球市民かながわプラザ1階 ☎045-896-2626

## 特集

## 学校が変わる ~ NGOと協力してつくる「総合的な学習の時間」~



2002年4月から、完全学校週5日制が実施されるとともに、小学校3年以上と中学校の教育課程に、「総合的な学習の時間」が導入されることになりました(高等学校は、2003年度からスタート)。子どもたちの「生きる力」を育むことを目的に新設されることになった「総合的な学習の時間」は、学校や地域の特色を生かしながら、「国際理解・環境・情報等」の横断的・総合的な課題などを取りあげて学習を進めるものです。小学校では週平均3時間、中学校では週平均2~4時間、また、高等学校では卒業までに3~6単位配当されることになっています。

「総合的な学習の時間」では、子どもや地域の実態に応じて、学校が独自に学習テーマや学習方法、時間割を設定できるため、例えば、子どもたちが地元の川をフィールドワークし、調査の結果をインターネットのホームページにまとめる作業に丸々1ヶ月かける、といった実践が可能となります。このように、2002年度以降は、教育内容の編成に関わる学校の裁量が大幅に広がる一方で、教科学習を含めたカリキュラム全体を学校が自らの力でデザインする責任も出てきます。

また、「総合的な学習の時間」を創設するねらいが、「子ども自らが課題を発見し、自ら考え、問題を解決していく態度を育てる」ことを目指していることから、教師の役割が、従来の「子どもに知識を伝達する教育者」から、子どもの興味・関心に寄り添いつつ、学校外のさまざまな人々と協力しながら「学びを創るプロデューサー」へと変わることが期待されています。教師にとっては、かなり自由

に教育内容を定めることができる反面、子ども一人ひとりの興味・関心の所在や学びのプロセスを丹念に追いかけて、適切な支援を行わねばならない責任を負うことにもなります。

しかし、子どもの豊かな学びを創るうえで、力量が問われているのは教師ばかりではありません。学校を内外から支える人々(=PTAの父母、地域住民、教育に関心を寄せるNGO等)の教育力も、同時に問われているのです。今、多くの学校で、外部講師を招いての授業づくりが模索され始めています。外国籍住民や国際協力を行うNGOスタッフが、教室の中で自らの実体験を語る、というような試みが県内各地で展開されています。当協会にも、「外部講師を学校に招いたことで、異文化に対する子どもたちの意識に変化が見られた(教師)」「事前の打ち合わせがなく、何でもいいからあなたの海外体験を45分で話してくださいと言われて困った(NGOスタッフ)」などの声が寄せられています。

2002年の新しい教育課程の実施に向けて、これから学校と外部講師との連携による「総合的な学習」の授業はますます増えると予想されますが、そろそろ、両者が協力して授業を実践する場合の課題について、学校と協力者(NGOや地域住民など)双方の立場から率直な意見交換を行い、理想的な協働の姿を描く時期にきているのではないのでしょうか。今回の特集号では、当協会が今年2月に開催した以下のシンポジウムを振り返りながら、将来「総合的な学習の時間」を活用して国際理解教育を進める時の、学校とNGOのパートナーシップのあり方について考えます。

### シンポジウム「地域と学校の連携による国際理解教育の展開」

発題者 武部 公也さん 茅ヶ崎市立円蔵中学校  
出口 雅子さん ビナツボ復興むすしのネット(ビナツ)  
遠藤 晋さん AGLP神奈川、神奈川県立商工高等学校  
進行 小山 紳一郎 (財)神奈川県国際交流協会  
主催 (財)神奈川県国際交流協会、茅ヶ崎市国際交流協会

\*2000年2月26日茅ヶ崎市役所コミュニティホールにて「人材育成地域フォーラムin茅ヶ崎」のプログラムとして開催

元青年海外協力隊員によるワークショップ。カードの中から、「生きていくために大切なもの」を選び、討論を行う。(円蔵中学校) スリランカ人の講師から現地の生活・文化を学ぶ。(円蔵中学校) 「アジアを学ぼう!1日学校」の図工の時間。フィリピンのミニバス「ジープニー」をみんなで作る。(ビナツ) フィリピンのぬりえで遊ぶ。水牛やジープニー、トライシクル(三輪タクシー)など日本にないものに色をぬる子どもたち。(ビナツ) 日本で開かれた国際交流プログラムで、栄養価の高いベビーフードをつくる。(AGLP神奈川)

## なぜNGOは学校とつながりたいのか

ピナツボ復興むさしのネット(ピナツ) 出口 雅子



NGOに関心をもっていない層にアプローチしたい

私たちNGOや国際交流協会が主催するイベントは、すでに関心を持っている人は集ってくれますが、そもそも関心のない人は足を運びませんよね。そういう人たちにアプローチをするために、私たちの方から積極的に学校に向かいに行きたいと思っています。

最近では社会科の教科書などで、「ODA」や「NGO」という用語が増えているようですが、授業で知識としては入っても、「世の中にはNGOの人みたいに奇抜な人がいるんだね」と、ちょっと距離感があるのではないのでしょうか。そういう場実際にNGO活動をしている人が行って話をすることで、ずっと身近に感じてもらったり、実感を持って話を聞いてもらえるのではないかと思います。そして、「自分もNGOで働いてみたい」とか「事務所に遊びに行ってみようかな」という気持ちになってもらいたい。そういう意味でも、遠くの都心の大きなNGOよりも地元でNGOの人に来てもらって、「ここから10分

のところに事務所があるから、遊びにおいでよ」とか「今度こういうイベントをやるからいらしゃい」と声をかけられると、生徒さんの方も「あの人がやってくるイベントだったら行ってみようかな」と継続的につながっていくことができるのではないのでしょうか。

学校教育の課題にNGOが役立つのではないかと

外から子どもたちを見てみると、他の人に関心がなかったり、自分と違うものへの抵抗感が強いように感じます。私自身は普通のサラリーマン家庭に育ちましたが、「友達は大事にしなさい」と教わっても、実体験を通してそういうことを学ぶ機会が少なかったように思います。それよりも、「まわりに迷惑をかけてはいけない」とか「友達の心配をする前に自分の心配をしなさい」と言われ、「女も自立しなければ」と頑張り、人に対しても「そんなこと自分でやってよ」とあまり優しい気持ちになれず

に育って来てしまったように思います。

一方、フィリピンの人たちは、経済的には貧しいですが、貧しいからこそかもしれないですが、お互いに協力し合い、支え合って生きることを大切にしています。私は学生の時に2年間マニラに暮らして、人と人が支え合う楽しさ、大切さを初めて学んだように思います。私自身の弱い面が人に支えられ、受け入れられたり、そして、私も人を支えられることを日常のちょっとしたことで体験でき、自分は自分でいいのだと受け入れることができたり、自分の居場所を見つけることができました。フィリピンのシステムがよくて、日本のシステムが悪いと言いたいわけではないのですが、日本の子どもたちに、そういう人間関係もあることや異なる文化と出会うことでより豊かになれる楽しさを伝えることが、自分と友だちの関係のあり方を考え直すきっかけになったり、「いじめの問題」の解決などにもつながっていくのではないかと思います。

子どもが自分で考え、自分の答を見つけるには

先生が生徒に答を教えるのではなく、生徒自身が考える場を作り出すのは、とても大切なことだと思います。算数や漢字の

## 学校に呼んでもらうときのNGOからのお願い

学校の様子を教えてください

「1時間」と言われれば、45分ではなく、60分と覚えてしまったり、小学校3年生というのがどういうレベルなのか想像がつかなくなったりします。打ち合わせのときに社会科の教科書などを貸してもらったり、授業を見学させてもらって様子が少しでもわかると、準備がしやすくなります。

一緒にカリキュラムをつくる

1回の授業に呼んでもらうだけではなく、その前後を含めた一連のプログラムを一緒につくっていききたいと思います。また、外部講師を招く目的を明確にし、具体的に内容をリクエストしてもらえるとありがたいです。

一緒に授業の評価をする

授業終了後、一緒に授業の評価をしていただけるといいと思います。その上で、もう一度チャンスがあれば、2回目はもっと良い授業ができるでしょう。普段から、先生もNGOのイベントなどに顔を出したりして、率直に評価しあえる信頼関係ができていないですね。

(出口さんの講演より)

## 自分で気づき、考える力を育てるために

(茅ヶ崎市立円蔵中学校 武部公也)



円蔵中は、核家族化が進む市内の住宅地にあり、生徒は日頃から親や教師以外の大人と接する機会が少なく、社会体験も不足しがちで、何事に対しても受身の生徒が多かった。そこで、同校は1998年度から「総合的な学習の時間」を実施し、年間400名を超える外部講師による体験学習の機会をつくってきた。生徒は、さまざまな講師の生き方を学ぶことで、明らかに変わってきているという。学校だけではすべてを担えない中で、「総合的な学習の時間」には、学校の内外をつなぐ武部先生のようなコーディネーターが求められている。

学校の中から、電話1本で動かそうとしても人も機関も動きませんが、教師が自分の足で学校から1歩外に踏み出すことさえできれば、どんな学校でも地域とのネットワークがつけられると思います。私も3年前は、まるで営業職のように外回りばかりやっていたのですが、その結果、個人や団体とつながり、一緒に仕事をすることで、ネットワークがどんどん広がっていきました。

外部講師へ事前をお願いするのは、子どもが「気づき」「考える」ことを引き出してほしいということです。中には、丁寧に準備して、非常に熱心に専門的な内容を1から10まで教え込まれる講師の方もいますが、それでは、従来の一方的な知識詰め込み教育と変わりません。答を与えず、子どもたちが疑問に思ったままに終わることで、自分で考え始めることが多いようです。特に、生徒と一緒に学ぶ姿勢のある講師の方には、生徒は強く影響を受けるようです。先日、外国人の講師の方に、ある子がかなり厳しい質問をしたところ、その講師は同年代か目上の人に対するような態度できちんと回答してくれました。その時に質問した子が揺さぶられているのがわかりました。後で聞いたら、「その答の内容は全部は理解できなかったけど、自分をひとりの人間として扱ってくれたことに何より感動した」と。本当に身体が震えたと言うのです。

総合学習の中ではいろいろな魅力的な講師が来て、教科の中ではできなかった面白い経験ができます。ところが、教科の方は10年前と同じ知識詰め込み授業では、子どもは我慢できません。教科学習の中では、学ぶ力の基礎をもっときちんとやる必要があります。子どもたちが総合学習で得た疑問や関心を自分なりの課題にひきあげていくためには、学ぶ力がないと無理です。教科学習と総合学習をどうリンクさせるか。体験の内容以上に、それぞれの学習をどうバランスよく組み合わせることができるかが問われていると思います。

読み方など、答がひとつという問いもちろんありますが、生き方や物事の価値観はもっと多様で、正しい答はないと思うんですね。たとえば、女性の場合、「いい大学に入って、いい就職をして、いい人に出会って、いい母親になる」というのも、もちろん一つの生き方ですが、それが唯一の生き方ではないはずです。いろいろな考え方があるということを理解するためにも、「開発って何だろう?」「豊かかって何だろう?」という答のないものを授業の中で取り上げることも大切ではないかと思えます。

そういう意味では、NGOの人が学校に来て、「私たちがやっている活動こそが正しい援助です」とプレゼンテーションしてしまえば、せっかくの考える機会がなくなってしまいます。「私たちは、こういう風に考えて、こういう風に活動していますが、皆さんだったらどうしますか?」と一緒に考えられるように持っていく必要があると思えます。

#### 「何かを変えられる」という手応え

子どもたちが、南北問題や地球規模の課題を知ったとき、「そんなこと言ったら、何もできないよ」とか「何かしたってどうせ変わらないよ」と思いがちだと

思うんですね。何かをしたら何かが変わったという実体験は、自分の子どもの頃を思い出しても、あまりなかったように思います。例えば、

NGOの話を聞いて  
子どもたちが自分たちだったら具体的に何が出来るかを考えて  
文化祭でフリーマーケットを開いて  
その売上げをNGOに寄付して  
NGOの方はその寄付で何ができたのかということを具体的に生徒にフィードバックする、という継続的なやり取りがあると、ひとりひとりにとっては小さな行動、小さな参加でも何かにつながっていくんだ、世界につながっていくんだということが手応えとして実感できるのではないのでしょうか。

#### ピナツボ復興むさしのネット(ピナツ)

フィリピン・ピナツボ火山周辺に住む先住民族アエタの人々への支援・交流を行うNGO。武蔵野の地域に根付いた国際交流・協力活動を目指し、日本語教室や国際理解教育などにも取り組んでいる。

〒181-0014 三鷹市野崎3-22-16  
TEL: 0422-34-5498

## 「弱さ」から生まれたネットワーク

(県立商工高等学校 遠藤 晋)

遠藤先生は青年海外協力隊のOB。アフリカのケニアで活動した経験やネットワークを生かし、「アフリカと日本の高校生の相互理解を深める」ことを目的に1993年にアフリカ・グローバル・リンク神奈川(AGLP神奈川)というNGOを設立。専門高校の教師と生徒が中心になって活動を進めてきた。ケニア、ガーナ、神奈川の3つの地域において、途上国の課題であり、かつ実生活にかかわりのある「小規模発電」「ごみ処理とリサイクル」「水の浄化」などのテーマを選んで、それぞれの学校で課題研究を行っている。専門高校の生徒が、日々学んでいる専門技術を生かしながら、地球規模の問題、特に途上国で日常的に起きている問題を現地の高校生とともに考え、意見交換しながら具体的な解決を模索しているのは、ユニークな取り組みだ。生徒の自信や教科学習への意欲、さらには日本の自分たちの生活や技術の見直しにもつながっている。

教員はどうしても、あるべきカタチ通りに生徒に教えなければならないととらわれがちですが、教員側も弱さを出して、生徒と一緒に勉強していければいいのではないのでしょうか。教員が正直に「わからない」と言うことで、生徒が心を開いてくれることもあります。学校でこうした活動をしていく上で、私に足りないことは本当にいくつもあるんです。そうすると、まわりの人、地域の手が必要になります。たとえば、私では無理なので、英語教師に英文を添削してもらったり、人が足りなくて外に助けを求めたら、大学生がインターネットのホームページの作成だったら手伝いますよと参加してくれることにもなった。最初は、教員が始めた事業ですが、いろんな人が関わるようになりました。生徒たちも教員より歳の近い大学生との共同作業はいろいろな刺激になるようです。自分の弱さを伝えることで、結果として学校が外に開かれていくことになった気がします。

学校もずいぶん変わってきています。地域社会との連携なしには、「総合的な学習の時間」を推進できないという認識は充分ありますので、学校に関心をもってくださるNGOや地域の方々からの呼びかけに応えられる学校が増えていると思います。それでも、正面からぶつかって難しい時には、私とか武部先生に声をかけていただいたり、関心のある先生を見つけて、個人的なつきあいから入っていくのもひとつの方法ではないでしょうか。先に実績を積み上げることが大事だと思います。どうぞ、ご支援ご協力をお願いします。

ピナツは

### ステップ 1

#### フィリピンを好きになる

フィリピンの文化や人に触れ「おもしろそう、もっと知りたい」という気持ちになる

- ・フィリピンの料理を一緒につくって食べる
- ・フィリピンの写真を見て、いろいろな話をする
- ・フィリピンの人と一緒にゲームをしたり、言葉を教えてもらう

### ステップ 2

#### 日本とフィリピンの歴史、関係を知る

フィリピンの貧困が、私たちの豊かさやライフスタイルにも関係していることを知る

- ・日本による植民地化の歴史、日本企業による環境破壊、フィリピンから日本への出稼ぎ労働者の問題、日比混血児の問題などをテーマに設定する
- ・新聞記事やテレビの報道番組などを教材として利用する
- ・参加型ワークショップでシミュレーションを行う

### ステップ 3

#### フィリピンの人々との共生を考える

日本とフィリピンの課題に取り組むNGOの活動から学ぶ

- ・NGOのスタッフやボランティアなどの外部講師が、どういう活動をしているのか、その中でどういう試行錯誤があるのかを紹介する

### ステップ 4

#### 自分の考えを表現する

自分が関心を持った問題について、ひとりひとりが考え、全体で共有する

- ・作文を書く、絵を描く、詩をつくる
- ・クラスでフィリピンに手紙を書く



イラスト：  
清重伸之

#### 参考文献

- 『総合学習を創る』、稲垣忠彦著、岩波書店
- 『総合学習を学びの広場に～手づくりと協働の知恵～』、岩川直樹著、大月書店
- 『子どもがつくる総合学習～総合単元の開発と学年プラン～』、横浜国立大学教育人間科学部付属横浜小学校著、東洋館出版社
- 『学習の転換～新しい「学び」の場の創造』、河内徳子ほか編、国土社
- 『学び心育てる博物館～「総合的な学習の時間」への最新実践例、博物館と学校をむすぶ研究会編、(株)ミュゼ

「総合的な学習の  
時間」に役立つ

# 情報フォーラムへおいでください!

神奈川県国際交流協会が運営している「情報フォーラム」(あーすぶらざ2階)には、国際理解のための図書をはじめ、NGO/ボランティア団体などのニュースレター、イベントの案内など、国際理解教育、多文化教育、環境教育などの実践に役立つさまざまな情報が集められています。どうぞご活用ください。協会のスタッフがお待ちしております。

550タイトルのニュースレター  
さまざまな分野のNGO/ボランティア団体などのニュースレター、情報誌が550タイトル以上備えてあります。

内 容	タイトル数
各地の国際交流協会	143
国際事情全般	111
海外協力	71
在住外国人支援	44
国際交流	41
国連、JICA/ODA	35
ボランティア活動、地域の動き	31
自然・環境保護	27
留学、日本語教育	25
人権、平和、開発教育	25
合 計	553

ユニセフビデオの貸出サービス  
途上国の子どもたちへの保健衛生活動などを行うユニセフの支援活動を紹介するビデオ(放映時間:10~20分)が約40本あります。対象は幼稚園児から大人まで幅広く、学校や個人に貸出しを行っています。情報フォーラムは、(財)日本ユニセフ協会の寄託図書館に指定されており、ビデオ以外にもユニセフ関連の各種資料を用意してあります。

13,000冊の専門図書  
開発・環境・人権・平和などの「地球規模の課題」、世界各国の歴史・社会・文化を紹介する「国際理解」、国連などの国際機関・政府・NGOの「国際協力活動」、国際理解教育・多文化教育・環境教育など「教育」についての書籍、資料、雑誌が約13,000冊ご利用できます。

国際協力プラザコーナー  
(財)国際協力推進協会と協力し、ODAやNGO、国際機関などの国際協力に関

する情報を提供する場として「国際協力プラザコーナー」を設置しています。

イベント情報  
常時100以上の各種講座、セミナー、スタディツアーなどの「チラシ」「ポスター」「リーフレット」があります。

## 情報フォーラムの利用

- ・スタッフが情報を探すお手伝いをします。お気軽に声をかけてください。
- ・室内の閲覧、レファレンスサービスはどなたでも。貸出は県内在住・在勤・在学の方、お一人3冊、3週間まで。
- ・国際交流・協力や環境問題などのボランティア活動の打ち合わせの場としてもご利用ください。

開館時間(月曜日と年末年始休館)

平日 9:00~20:00

土・日・祝 9:00~17:00

貸出は閉館の30分前まで

## イスコーレかながわ vol.3

# ハイティーンのための「映像学校」

参加者募集

いろんな「問題」があるのはわかるけど、それってほんとどんな関係があるわけ?

17歳ってトクベツなの?

「人間」って平等か?

いつから「オトナ」になって、

いつから「コドモ」じゃなくなるんだろう?

この映像学校は、ハイティーン(おもに16歳以上の十代のひと)を対象に、映像づくりをとおして、「いまを生きる」ことをめぐるさまざまな「問い」を発見してみようというものだ。君の「目」と「耳」をとおしてこの「世界」を眺めてみたら、どんな「世界」が見えるだろうか?

この学校では、たんに「機械の使い方」をおぼえるのではなく、「映像」という道具を活用しながら「いま」をテツガクしてみること、「課題」や「問題」をオープンキョーしてしまうのではなくて社会の中にある「自分」を見つけること、自らが撮り、あるいは自らが撮られることで私たちの社会をとりまく「世界」が実はいろいろな「謎」や「問いかけ」に満ちていることを発見すること、そしてその「謎」や「問いかけ」をモニタージュしてみること、そんなことを目指してみたいと思う。

スケジュール 8月1日(火)~9日(水) 全7回

1回目 オリエンテーション、はじめての映像体験

2回目 作品のテーマと構成を考え、話し合う

(この回は江の島の県立女性センターに宿泊します)

3回目 撮影開始、機材の使い方をまなぶ

4回目 撮影は続く

5回目 編集についてまなぶ

6回目 ひきつづき編集!!

7回目 作品発表と評価会

対 象 おもに16歳~18歳の方 15名

と ころ あーすぶらざ(JR根岸線「本郷台」駅前)  
ワークショップルーム、映像編集室など

参加費 3,000円

(別に宿泊費用約2,000円が別にかかります)

問合せ 企画情報課

\*応募者が多い場合は選考します。

\*作業に必要な撮影、編集機材はお貸しします。

\*詳しくは、チラシをご覧ください。

ご参加ください

## 神奈川国際学生会館 交流行事のご案内

## 白根ガーデンパーティー

夏の宵を、緑鮮やかな芝生の庭で留学生たちと過ごす、楽しい交流パーティーです。

**とき** 7月22日(土) 18:00~21:00

**ところ** 神奈川国際学生会館・白根  
横浜市旭区白根4-24-3  
(相鉄線鶴ヶ峰駅徒歩15分)  
\*下記地図参照

**内容** 野外バーベキュー、留学生によるエスニック料理、花火、ゲーム

**参加料** 1,000円

**申込み** 当日会場にて受付



## ふちのべ銀河まつり・模擬店

地域の夏祭りで、国際学生会館の留学生がエスニック料理を調理、販売します。大勢の留学生が参加します。学生たちの元気あふれるテントを訪ねて、話しかけてみてください。

おいしいエスニック料理を食べながら、会話に花を咲かせてください。

**とき** 7月29日(土)・30日(日)  
12:00~20:00

**ところ** 淵野辺駅北口駐車場  
(JR横浜線淵野辺駅北口広場左側)

いずれも

**問い合わせ** 神奈川国際学生会館・淵野辺  
TEL: 042-768-0211



第27回全国・第11回関東ブロック

海外子女教育・

国際理解教育研究大会

(神奈川大会)

海外、帰国、外国人児童・生徒教育、国際理解教育とともに、「総合的な学習の時間」への取り組み等について考える全国規模の研究大会です。テレビ会議やワークショップ、分科会等で、地球市民育成のための教育や地域の取り組みについて参加者と共に考えます。

**とき** 8月3日(木) 9:30~16:30  
8月4日(金) 9:20~12:30

**ところ** あすぶらざ、栄公会堂ほか  
**参加費** 4,000円

**問い合わせ**

大会事務局  
横浜市立平戸中学校 田中光一  
TEL: 045-823-8272  
FAX: 045-826-3991

<http://www.asahi-net.or.jp/pd3y-sn/>

**主催** 全国海外子女教育・国際理解教育研究協議会、関東ブロック海外子女教育・国際理解教育研究協議会、神奈川県国際理解教育研究協議会

**共催** 神奈川県、(財)神奈川県国際交流協会

がいこくせきけんみん かいぎ こくさいきょうりょくかいぎ  
「外国籍県民かながわ会議」・「NGOかながわ国際協力会議」

だい 2 き い いん ぼしゅう  
の第2期委員を募集しています!!

## 外国籍県民かながわ会議

この会議は、外国籍の方が、日頃感じている問題を協議し、知事に提言をする機関です。第1期では、外国人の住宅入居を支援するシステムの設置などが提案されました。

外国籍の皆さん、ふるってご応募ください。

**募集人数** 20人

**任期** 2000年11月から2002年10月まで(2年間)

**会議日程** 年8回 \*会議は日本語で進行(通訳の同行可能)

**目的** 外国籍県民に関する施策を協議し、知事に提言する。

**応募資格** 2000年4月1日現在で満18歳以上の外国人登録をされた方で、過去1年以上県内に在住、在勤、在学しており、かつ任期中も県内に在住、在勤、在学を予定されている方(日本国籍を取得された難民の方も応募できます。)

**応募方法** 応募されるご本人が、日本語で応募用紙または任意の様式に、必要な事項(氏名、住所、電話番号、勤務先・通学先の名称および住所、生年月日、年齢、性別、国籍、在留資格、在日年数、応募理由など)を記入して提出してください。

## NGOかながわ国際協力会議

この会議は、NGOで活動されている方が、日頃感じている問題を協議し、知事に提言する機関です。第1期では、国際交流協会のあり方や、国際協力におけるNGOと自治体の連携施策について提案がありました。

NGOの皆さん、ふるってご応募ください。

**募集人数** 10人

**任期** 2000年11月から2002年10月まで(2年間)

**会議日程** 年8回

**目的** 県の国際政策等について協議し、知事に提言する

**応募資格** 国際政策分野で、非営利の公益活動を行っている県内団体に所属し、所属団体の推薦を受けた方

**応募方法** 推薦理由、団体の概要、活動分野等を記載した所属する団体の推薦状と、氏名、住所、電話番号、生年月日、年齢、性別、所属NGOの名称、役職、活動実績、応募理由などを記入した書類を提出してください。

\* 応募締切 いずれも2000年8月31日(木) 必着。  
\* 選考委員会では選考の上、10月下旬にご本人にご連絡します。  
\* 応募書類の提出、また応募方法や必要な書類などのお問い合わせは事務局まで。

【事務局】神奈川県県民部国際課企画班

TEL: 045-210-1111(内線3748~3750) FAX: 045-212-2753

国際交流・国際協力のための

## ポスター作文コンテスト作品募集

「国連の役割」「平和」「安全」「人権」「環境」「国際理解」「国際協力」などについて、ポスターや作文に表現してみませんか。

応募資格および規格

**\*ポスター\***

小学生(4つ切 約39×54cm)  
中学生(4つ切 約39×54cm)  
高校生(半さい 約54×78cm)  
一般(半さい 約54×78cm)

**\*作文\***

中学生のみ  
(B4縦書400字[20×20]詰原稿用紙 3枚以内)

締め切り 2000年9月8日(金) 必着

\*ポスターは裏面に、作文は原稿に、氏名(フリガナ)・年齢・住所・学校名・学年を記入の上応募してください。

\*応募の詳細については、当協会にお問い合わせください。

問い合わせ 管理・国連課

## ETHNO-MESSAGE

# 新しい提携レストランのご紹介

◆国際交流協会の会員様を優先することにより、特別サービスが受けられます◆

### アル・アイン【アラビア料理】

市営地下鉄「伊勢佐木長者町」駅から徒歩約2分・JR「関内」駅から徒歩約10分。

レバノン人で、クウェート大使館で8年間コックをしていたジヤード・カラムさんと奥様の岩崎千恵子さんのお店。

岩崎さんがヨーロッパを旅行中、パリのアラブ人街で食べたレバノン料理の美味しさが忘れられず、帰国後「アル・アイン」をオープン。

レバノン料理はアラビア料理の中でもフランスの影響を受けた料理として知られ、非常に洗練された味です。野菜、穀物類をベースに、肉や魚も使っており、お好みで辛味のペーストを付けていただくものもあります。

人気のメニューは、ポケットブレッドの中に、スパイスに一晩漬け込まれた牛肉を入れ、ゴマだれをかけて食べるアラビア風ハンバーガー、シャワルマや、アラビアパンに付けて食べるひよこ豆とゴマのペーストなど。デザートには100%ローズ

エッセンスを使用したバラの香りのミルクプリン、マハラベヤがオススメです。

毎週金・土の夜はアラビアンナイトと称して午後8時30分からベリーダンスのショーを楽しむことができます。この日はすべてコース料理となり、ショーが見やすい席を確保するには予約が必要になります。

サービス 飲食代金の15%を割引

営業 火～土 17:30～23:30

日 17:30～23:00

定休日 月曜日



横浜市中区弥生町2-17

ストークタワー大通公園 B1F

TEL: 045-251-6199

## 神奈川県国際交流協会(KIA)は

地球のすべての人が、国境や人種、文化の違いを越えて、人間らしく暮らせる社会の実現のため、人と人とのつながりを大切に「国際交流」「国際協力」を推進するさまざまな事業を展開しています。

### あなたも会員になりませんか?

協会の活動を支える会員を募集しています。会員になると

協会が主催する各種催しや国際交流団体、NGOの催し情報、ボランティア情報を掲載した『Hello Friends』『サラダボウル』をお送りします。会員の方を対象にした催しへご招待します。『エスニック・レストラン・マップ』をお送りします。会員証の提示で、提携エスニック・レストランの優待サービスが受けられます。

年会費：個人 3,000円から  
団体 10,000円から

\*会員になりたい方は、協会までお問い合わせください。振込用紙など関係資料をお送りします。

協会が運営する地球市民かながわプラザ内の施設の利用時間は下記のとおりです。

情報フォーラム 9:00～20:00  
(土曜・日曜日・祝日 9:00～17:00)  
映像ライブラリー 9:00～17:00  
\*月曜日は休館日です。



このほか、神奈川県国際研修センターと神奈川県国際学生会館を運営しています。

各事業に関するお問い合わせは、  
(財)神奈川県国際交流協会  
(☎045-896-2626)

までどうぞ。

# Hello Friends

2000年7月1日発行  
第215号

発行 財団法人 神奈川県国際交流協会  
〒247-0007  
横浜市中区小管ケ谷一丁目2番1号  
神奈川県立地球市民かながわプラザ1階  
☎045-896-2626 FAX 045-896-2945  
URL: http://www.k-i-a.or.jp  
E-mail: hello@k-i-a.or.jp  
(株)エー・シー・ピー  
印刷 (株)野毛印刷社

「学校で備蓄している乾パンの賞味期限が切れかかっているが、有効利用したい。海外で食べ物に困っている子どもに渡せないか?」という相談の電話があった。日本でも海外に寄付することの是非に加え、輸送コスト、適切な時機、現地の食文化との問題、現地産業への影響、必要な人に渡るか等、緊急救援活動で常に議論されてきた問題があれこれ頭に浮かび、別の提案をしたのだが、善悪のアイデアを否定した上に、こちらの情報不足もあり、相談者の納得は得られなかった。気がなうて後から調べたところ、ある程度のまとまったトン数になり、緊急救援が必要を受け入れ先があれば、国連世界食糧計画(WFP)が調整してくれることがわかった。食糧提供者は、輸送等にかかる百万円単位の経費を負担する。首都圏では(社)日本外交協会が自治体が備蓄している乾パンを集め、政府の草の根無償資金を輸送費にあて、WFPに提出している。別の方法としては、豚の飼料としても利用できる。横浜市には菓子メーカーのビスケットを引き取って、養豚飼料をつくる会社もあり、乾パンでも可能とのことだ。また、もし近所に直接乾パンを引き取ってくれる養豚農家が見つかり、学校との交流が始まれば、地域づくりや授業のプログラムにもつながる可能性もある。賞味期間中に災害がなまかたに感謝しつつ、みんなで乾パンを食べる日を設けることもできるだろう。その時に浮いた食費を集めれば、生徒自身の知恵で有効に使えそうだ。乾パンをもらうかも生徒が調べ、考え、自分たちの方法を選ぶことができるかもしれない。皆さんだったら、どうしますか? 考え方もやり方もそれぞれだが、だからこそ小さな契機をつぎつぎとなく、どう育っていくか、今月号特集の読者の言葉を改めて考えさせられた。

(企画情報課 山内 涼子)

\*キャラバン・サライとは、かつてシルクロードにあった商宿。文化・情報の中継点となっていました。協会職員からのメッセージ発信の場となるよう名付けました。次回の機関紙の発行は9月上旬の予定です。(Hello Friendsは奇数月に発行しています。)